

新時代

第 9 号

昭和 44 年 1 月 30 日

日本盲人福祉研究会

(文 月 会)

正盲兼用 女子用 腕時計
男子用

提時計。目覚時計

製造発売元、 小 西 立 志 堂

小 西 健 司

京都市下京区河原町4条下ル 郵便番号600

電話 京都 075(351) 5076

振替口座 京都 6301

(住所明確にお申込次第カタログ無料進呈)

盲 人 用 具

研 究 製 造 販 売

点字・墨字カタログあり

浜松市布橋 2-44

盲人社会
福祉施設

盲 人 福 祉 研 究 会

電 話 0534-71-8480

振替口座 (名古屋)19988

目

次

巻頭言「思索と情熱を」	玉田敬次	1
職種開拓への挑戦	永井昌彦	2
私の経験	近藤敏郎	6
ピアノ教授を盲人の新職業に	井上誠一	9
盲人と西洋音楽	和波孝禧	11
英語教室5年の歩み	中村久也	13
英語塾と私	寺西勇二	16
明日への期待	戸井美智子	18
盲人の可能性について	小森禎司	20
盲人の職業について		
一牧師としての経験の中から一	緒方一誠	23
盲人牧師という仕事の可能性	青木優	26
司書としての経験から	松本昌三	28
この道に生きる	細田裕巳	30
暗中模索の十年	多田一義	33
一般企業に就職した盲人たち	中野一	34
盲弱視教育に望む		
一盲弱視児の正眼児との共学制度の 実現を望む一	福井章二郎	38
マニラ盲人福祉会議第3回を終えて	岩橋英行	41
会員の皆様へのお知らせ		45
一第8回例会報告他一		

巻頭言

「思索と情熱を」

玉 田 敬 次

数年前、世界盲人福祉協議会を終えて帰国された岩橋英行氏は、世界の実情を見聞し、日本の現状を考えて「日本の盲人は先ず人間になることと、印度なみの生活をすることを目標にしたい」と感想を語られた。私はこの話を聞いて少なからず衝撃を受けた。しかしよく考えてみるとそのとおりだと思う。

人間になることを目標にすると云えば、裏を返せば日本の盲人は人間並の生活をしていないということになる。印度と云えば食糧の深刻な危機と貧困と病気の国である。世界の工業生産の第三位を占め、経済、文化とも豊かな先進国並になっている日本が、後進性に苦しんでいる印度を目標にとはどう云うことなのだろうか。それは恐らく、日本においては盲人は事実上三療（鍼、灸、あんまマッサージ）の仕事にしかつけないという職業選択の自由が失われているということに起因するものと思う。

今年開かれた、アジア盲人福祉会議に出席された埼玉盲の福田守夫氏もアジアの実情を見聞して「アジアの諸国は産業、文化、盲教育などの点に関しては確かに遅れているが、教育哲学、盲教育理念は日本よりはるかに進んでいる。その実例として盲人が普通学校で学ぶ合併教育がすでに行われており、盲人が普通学校の教師をしたり、他の職業にも従事している」と同じ課題を指摘しておられる。

日本の盲人が三療業に従事し、かなりの収入を得て自活していることは恵まれたよいことであり、それ自体は感謝して受けとめなければならない。ただそれが多くの職業の中の一つであれば問題はないが、事実上その職業にしか従事出来ないということに問題がある。

その解決策として、今迄の盲界は他の職業を与えて貰うことや、或はそのかわりに経済援助などの陳情や要求ばかりしているように思う。それも大事なことはあるが、しかし要求する形の中からは本当のものや、成就ということは生まれてこない。ではどうすれば成就するだろうか。

私は盲人の職業が三療業だけに閉ざされてしまった現状が、どこから来たのかその過去の歴史をたどり、その歴史を厳密にとらえることによってその原因を探し出し、その原因、がどうすれば解消するかを客観的に明らかにすることが必要だと思う。それなくしてはこの問題の解決は生まれてこないのではないだろうか。

その分析研究に当って今迄の盲界では、単なる思いつきや感覚的、或は主観的な経験からの意見が多いように思うが、そうではなくすべての人を納得させ得るような科学的研究や、それに基づき深い思索がなければならない。多くの専門家を有する文月会こそそれをなし得る会であり、それが文月会に与えられた使命であると思う。

第2に事柄が成就するかしないかは、その事に対して情熱を持つか、持たないかにかかっている。文月会の会員はそれぞれに職業を持ち、忙しい生活を送っている。

その余暇に文月会の活動に参加している。従って文月会の活動に多くの時間と労力をさき、それに集中することはお互に困難である。私も牧師の職にあるために、毎年日曜日に開かれる例会に欠席することが多く申訳なく思っている。それにもかかわらず会員の一人一人が情熱を燃やすことなしには盲人問題の解決はあり得ないと考え、また、自分にも云い聞かせている。

情熱を燃やすとしても、1人1人がばらばらに燃やすのでは何にもならない。一人の人間が社会を動かす個人プレーの時代は終わった。現代は多くの人が力を合わせる共同と連体によって事柄が形成される。その意味で多くのすぐれた人材を有する文月会が、盲会の僕となって盲人問題の克服と解決のために、ますます力をあわせて会の活動に参加されることを希望する。

(筆者は芦屋三条教会牧師、本会会員)

職 種 開 拓 へ の 挑 戦

永・井・昌・彦

イギリスにおける盲人の職種別就業状況は次の通りである。(註1)

第I表 イギリスにおいて雇用されている盲人の職業。

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

「編集後記」

ここに機関紙「新時代」第9号をお届けします。編集の勝手際から発行が予定より遅れましたことを、深くお詫びいたします。今回は編集委員に大上、中野、永井、竹内、玉田の諸氏と私（高橋）が当り、編集方針について話合いました結果、「盲人の可能」について特集いたしました。

関係者の間で古くから盲人の新職業開拓がさげばれながら一向に解決していない現実をみるときに、その問題のむずかしさを感じないわけにはいかない。しかし、果して関係者はとれほどの努力と配慮を払ってきただろうか。盲学校の新職業課程にしても画一的な指導教育である。これも、副業ないしは、情操教育が目的ならともかくも、正業とするには職種にしても、指導方法にしても検討の必要がある。唯一の正業と思われる、ピアノ調律も脱落者が何人か出て、前途多難な感がする。「盲」というハンディを持つ者だからこそ、なおのこと個人の適正能力を正確に把握し、それに適応した職種を指導すべきなのである。従って、職能適正研究機関が当然組織されていなければならない。個性にマッチした職業についてこそ人間としての生甲斐も感じ、職業における正盲の壁は無くなるのだと確信する。ご執筆願った諸氏はそれぞれの分野で正眼者に互して立派に活躍している。この皆さんの体験を通してのご意見は、貴重であり、職域の拡大を願う私たちにとって大きな、示唆を与えてくれることは間違いない。紙数の関係で小数の方にのみ、ご執筆願ったことはかえすがえすも残念だった。

なお、「点字版」に限り、製本の都合で「例会報告」など会からのお知らせは「別冊」としましたのでご了承ください。最後に皆さまのご健康とご多幸をお祈りして筆を置きます。（筆者は本会代表委員）

新 時 代 第 9 号

昭和44年1月25日印刷
昭和44年1月30日発行（非売品）

発行所 大阪市東淀川区東三国町2丁目104-1
東淀川団地17-310

〒532 振替口座 27588番
日本盲人福祉研究会
（文月会）

発行人 「新時代」編集委員会